

おきみゅー通信

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum News Letter

vol.13 秋号

動乱の時代に
生み出された遺産



今帰仁グスク（今帰仁村）



勝連グスク（うるま市）

玉城グスク（南城市）

知念グスク（南城市）

＼愛称がおきみゅーになりました！



沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

博物館特別展

琉球王国のグスク及び関連遺産群
世界遺産登録20周年記念特別展

グスク・ぐすく・城 —動乱の時代に生み出された遺産—

11/19(火) 2019 — 1/19(日) 2020

博物館企画展示室、特別展示室1・2
一般 1,100(950)円、高校・大学生 600(500)円、
小・中学生 300(240)円

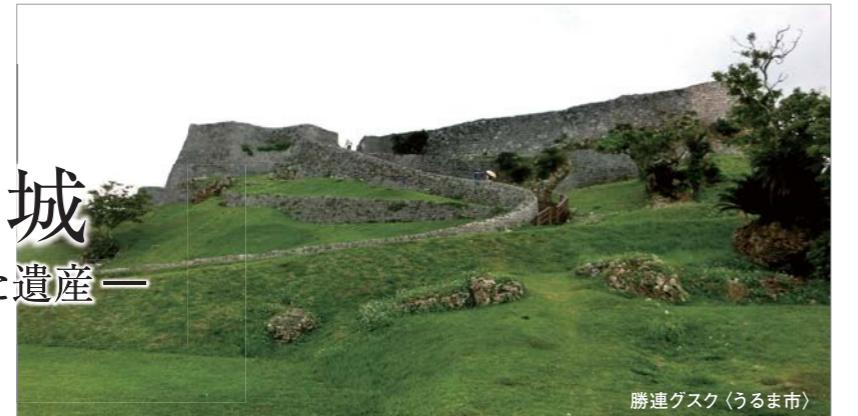
※()は前売料金または20名以上の団体料金
※障がい者手帳をお持ちの方および
その介助者の方1名は当日料金から半額

沖縄の遺跡というと「グスク」のイメージが
強いですが、意外とグスクだけを取り上げた
展覧会はなかったのですか？

実は旧博物館（那覇市首里）時代に一度だけグスクにスポットを当てた展示会がありました（1985年の「特別展 グスク」）。その際も多くの来館者があり、グスクから出土した資料を中心にしてグスクの魅力を余すところなく展示公開していたと聞いています。今回は約35年ぶりにグスクにスポットを当てた展示会で、琉球列島各地のグスクから発掘された資料を中心に、当館所蔵の歴史、民俗、自然史の資料を使って、総合的にグスクが理解できるような展示を仕掛けているうと思っています。さらには、グスク関連の映像資料も多く織り交ぜながら展示を構成していく予定です。

展示では、グスクの形態にも焦点を当てているようですが、形にはどのような特徴があるのでしょうか。

グスクには石積みを用いたタイプと、石積みを用いないタイプに大きく分けることができます。一般的なグスクのイメージとしてある石積みを用いたタイプは、主に沖縄本島中南部に分布しており（首里城、今帰仁グスク、勝連グスクなど）、かなり規模の大きいものを見ることができます。小規模なものでは石積みで囲った空間が単独であり、大規模なものは石積みで囲った空間が幾重にも繋がっています。また、グスクに見られる防御施設については中国大陸からの影響



勝連グスク（うるま市）

2020年ユネスコの世界遺産登録20年を迎える「琉球王国のグスク及び関連遺産群」。この秋、当館では「グスクとは何か？」を徹底解剖する展覧会を開催します！気になる展示内容について、担当学芸員に聞きました。

を受けているものも見ることができます。

一方で石積みを用いないタイプは主に沖縄本島北部から奄美諸島にかけて主に分布しています。これらのグスクが分布する地域は石材があまり採れない地域であることから、丘の斜面を削って城壁のように傾斜を持たせ、その上に平坦地を設けるといったように、人工的に地形を改変して防御を高めているのが特徴です。石積みを用いたタイプと比べて小規模なものが多く、グスクへの進入を阻むために尾根を断ち切る掘切が見られることも特徴の一つとして挙げられます。

武器や武具も展示するんですね。

14世紀後半ごろからグスクの規模が大きくなり、石積みは高く築かれていますが、それは戦い方が多人数になっていったことの表れであり、多くの武器や武具資料がグスクの発掘調査で出土しています。

今回の特別展では、飛び道具として鉄鎌、石弾、打ちものとして鍔、切羽、兜金、笄金物などの刀装具といった武器類を展示します。また、グスクに関係する伝世資料として刀剣・千代金丸の拵え（展示期間限定）や首里城跡から採取された鉄刀の完形品、当館所蔵の火矢もあわせて展示します。

武具資料では首里城や浦添グスクから出土した八双金物、小札、鞞、茱萸金具、兜前立などを展示します。基本的に日本本土に見られる武器や武具の形になり



座喜味グスク（読谷村）

火矢（沖縄県立博物館・美術館蔵）

美術館企画展

上條文穂と波多野 泉 現代彫刻展

9/20(金) 2019 — 11/4(日)

美術館企画ギャラリー1・2

一般 1,200(1,000)円、高校・大学生 800(700)円、小・中学生 300(250)円

※()は20名以上の団体料金 ※障がい者手帳をお持ちの方およびその介助者の方1名は当日料金から半額

上條文穂

上條文穂（1953年長野県生まれ）は木彫から出発し、沖縄へ移って以降は、石灰岩や漆喰、土など、沖縄の素材を用いて制作

をしています。移住初年に本島南部をめぐっていた上條は、削られたばかりで真っ白な石灰岩の地表と出会います。それをきっかけにサンゴが堆積して石となり島を形成していく過程をイメージし、沖縄の大地をテーマとした《堆積の原》（1988）を発表しました。

また、上條は沖縄の土を用いて制作するテラコッタ（素焼き）作品でも知られており、巨大作品を焼き上げる独自の方法を確立しました。沖縄県公文書館に設置されている《土の館》（1995）など、その作品は県内外で多くの人の目を楽しませています。

そして近年では、原点回帰するように木彫の仕事を続けています。夏の日差しを受ける木の葉をみて「植物の葉は今日の光を記憶するかな」と思い、昔の八月の思い出がよみがえったという上條。それから日記をつけるように葉の形を彫り続け、《八月の果て》（1999）として発表しています。



《土の館》1995年
沖縄県立公文書館蔵



《堆積の原》1988年 作家蔵



《八月の果て》1999年- 作家蔵

木、土、漆喰など一貫して素材と向き合う上條文穂。観察を通して対象の中に彫刻的要素を求める波多野泉。二人の彫刻家は沖縄県立芸術大学で長きにわたって後進を育て、沖縄の彫刻に新たな流れを生み出しています。本展では二人の足跡をたどり、初期から最新作まで約70点の作品を紹介します。



《A Vocalist-Falstaff》2013年 作家蔵

波多野 泉

波多野泉（1957年滋賀県生まれ）はブロンズやテラコッタ、乾漆、FRP（繊維強化プラスチック）など、様々な素材・技法で人物像を制作してきました。1988年に開催された「なら・シルクロード博」で敦煌石窟の塑像再現に携わると、その造形に着想を得たテラコッタ作品《母になる女》（1989）を制作しています。「影響を受けるなら、古いモノから学びたい」という波多野。1996年以降になると、仏像で使われた技法である乾漆と木彫を主に用いて肖像を制作しています。

「いつも好き（よき）観察者でありたい」と語る波多野は、木の実や希少動物、そして人物の肖像彫刻を制作しています。沖縄県立芸術大学の声楽教授をモデルとした《AVocalist-Falstaff》（2013）などの肖像作品は、既存の価値観に縛られずに個を貫く「希少な人物」をモデルにしているといいます。（学芸員 大城さゆり）



《animalism(lion-tailed macaque)》
1997年 作家蔵



《母になる女》1989年 作家蔵

作家と現在 美術館企画展

12/24(火) 2019 — 2/2(日) 2020

美術館企画ギャラリー1・2

本展覧会は、沖縄県の内外で広く活動し、さらなる飛躍が期待される沖縄ゆかりのアーティストを紹介する企画展で、当館としても新たな試みとなるものです。

今回この展覧会で紹介する4名のアーティスト：石川竜一（1984-）、伊波リンド（1979-）、根間智子（1974-）、ミヤギフトシ（1981-）はいずれも沖縄県出身で、それぞれの現場で制作に取り組み、独自の探求を続けています。意欲的に創造に励む彼／彼女らの制作活動に焦点をあて、展覧会を通じてそれぞれの探求の足跡をたどります。

美術館と学校の連携

美術との“出会いの場”としての美術館。子どもにとっての美術館の役割について副館長が寄稿します。

美術館の働きのひとつに「教育普及」がある。担当学芸員は毎日忙しく美術館と学校を行き来し、教材開発や授業づくり支援を行っており、年々美術館を訪れる学校も増えつつある。団体の鑑賞は様々な面でハードルの高い取り組みであることから、「美術館に来ること」「コレクションを鑑賞すること」で教師も我々も、目的が達成されたような気持ちになる。しかし、本来の教育普及の目指すところは「出会いの場の創造」だけではなくその「出会いの扉の向こう側」にあるように思う。

私自身と美術との出会いは小学校低学年の頃に親から与えられた小学館学習図鑑シリーズ『美術の図鑑』であった。『昆虫の図鑑』や『植物の図鑑』の図版は精密なイラストであったのに対し、『美術の図鑑』は作品の画像が使用されており、本を開いたびにそのページの中で何がお気に入りかを指さしながら楽しんでいた。「どうして顔がゆがんでいるの?」「どうして点点で色を塗るの?」「どうして裸の女の人と服を着た男の人がピクニックをするの?」と一つずつ子どもながらに自己内対話(ツッコミ)をしていたように思う。そんな私の当時のお気に入りはおとぎ話の世界のようなアンリ・ルソーの絵であった。図画工作や美術の時間

沖縄県立博物館・美術館 美術館副館長 仲嶺 香代

岐阜県生まれ。琉球大学教育学部中学校教員養成課程美術工芸科卒業。長年、学校現場にて美術教育や生徒会活動、学力向上に関する研究を行い、コミュニケーションを育むワークショップや講座を行ってきた。浦添市立仲西中学校教頭を経て、2019年より沖縄県立博物館・美術館副館長兼美術館班長に着任。



美術館での対話による鑑賞の様子

以外では、親と出かけたデパートの特設会場の展覧会や、高校生の頃地元の岐阜県美術館が開館したのをきっかけに「おひとりさま鑑賞」を楽しんでいた。美術との出会い方は生活環境によって様々である。小さい頃は親が機会を与えることが多く、当館でもこの夏休みに親子で展覧会を楽しんでいる様子や、教育普及催事の体験ワークショップでシーサーづくりをしている光景など見ていてとても微笑ましい。

一方、当館のコレクションを基にした教育

普及活動として、学校との連携は大きな意義がある。先述の一人で鑑賞する自己内対話を、授業の中で仲間との学び合いを通して、独りよがりではない「相互評価」を生む対話していくことができる。子ども自身が「あの子の感じ方は個性的で面白いな」「この子の言葉の表現に共感する」と批評できるようになり、互いの見方・考え方をもとに仲間と一緒に新たな価値を作り上げる「深い学び」につながっていく。

今年8月、当館の教育普及担当学芸員によって「地域の美術や美術文化との出会いを作る美術館の学習支援プログラムの工夫」と題し一つの成果がまとめられた。美術館鑑賞教材「ニシミイ」である。彼女が教員であるからこそ「生活や社会中の美術や美術文化に豊かに関わる力」を育むことを目指して、「出会いの扉の向こう側」に子どもたちを導くことができるのかもしれない。沖縄の子どもたちが、地域に根ざした美術や美術文化を自分の言葉で自信を持って語れる日が来るのも、それほど遠くはないように思える。

美術館鑑賞教材を活用した授業



おきみゅー通信インタビュー

カフェめしだけじゃない! ミュージアムカフェ・カメカメキッチンの挑戦

沖縄の素材を使ったパスタやスイーツがおいしいカメカメキッチン。それ以外にも、作品展示を行ったり、展覧会の特別メニューを作ったりとミュージアムカフェならではの取り組みを行っています。カフェの活動について、店長の池城安司さんに聞きました。

カフェ内で作品展示を行っていますね。ちょうど今はイラスト展を行っていますが(「nitamameイラスト展」)、この取り組みについて教えてください。

カフェのインテリアになりながら美術館らしくアートも楽しめる空間にしたいという思いがあり始めました。取り上げる作家は、展示する勇気がまだ持てないという方やギャラリーを借りてまでやるのはちょっと…という駆け出しのアーティストを選ばせていただいている。今回展示しているnitamameさんは、県出身県内在住のイラストレーターさん。大手有名ゲームメーカーのイラストを手掛けるなど今はゲームのイラストをメインに活動しています。今回は偶然カメカメキッチン常連のお客様のお知り合いということで展示が実現しました。

まだ3回目なのですが、これまでシルクスクリーン展や、当館で行った絵本のワークショップの作品展示を行ってきました。実際には小さなカフェでの展示ですが、若手のアーティストさんにとっては、美術館で展示ができるというのは自信にも繋がるようです。実際、作家さんに興味を持ってコンタクトを取るお客様もいらっしゃるようです。

もう一つの取り組みとして展覧会とのコラボメニューも作っていますよね?

これまで「やんばるの森の美写真展」(2017年)、「ティラノサウルス展」(2018年)、「モンパチ展」(2018年)などでコラボメニューを作させていただきました。やんばるの森展では沖縄のハーブを練り込んだヤンバルクイナとイシカワガエル型のクッキー、ティラノサウルス展では「発掘ケーキ」と言い、チョコケーキの中に恐竜の骨に見立てたクッキーを仕込み子どもも楽しめるスイーツを作りました。モンパチ展では「モンパチパチアイス」という口のなかで弾けるキャンディをアイスにあしらったスイーツを作ったのですが、モンパチメンバーさんにも来店していただきSNSでアップしていただいたおかげで来店者も増えました。



台湾展とのコラボメニュー
“シークワーサーとパインの杏仁豆腐”(提供期間11月4日まで)。酸味の利いたさわやかなジュレと濃厚な杏仁豆腐の組み合わせがおいしい一品。



nitamameイラスト展の様子



沖縄の素材を使ったパスタメニュー

いつか沖縄がテーマの展覧会があったときは“ちんすこう”や“松風”など、琉球の伝統菓子を盛り込んだ「琉球パフェ」も作ってみたいなと思っています。

今後の展望や野望(笑)がありましたら教えてください。

ミュージアムにあるカフェなので、美味しいだけではなく何かちょっとでも発見につながるようなメニューを作っていて、沖縄にはもっとだわっていきたいと思っていて、「パスタにこんなものを使うの?!」という意外性のある沖縄食材を使ったメニューを作りたいです。例えばヘチマを使うと県外のお客様が驚いてくれます。島らっきょうを使うと「パスタにも使えるんだねえ」と喜んでくれます。

食器も焼物や琉球ガラスにこだわり、工芸と料理を同時に楽しめる、真のミュージアムカフェらしいおしゃれな空間を作つければと思っています。

展覧会を見終わった後に、ほっと一息つけるミュージアムカフェ。今後もカメカメキッチンのクリエイティブな取り組みに注目です。



シリーズ
きょういく
ふきゅう
Vol.3

おしゃべりはいかが？

美術館で楽しく

そこで、小さなお子さんから大人まで、博物館・美術館を楽しむきっかけにしてほしいという想いを込めて、今年も11/3(日)文化の日に「おきみゅー ゆんたく(おしゃべり)デー」を開催します。この日は全ての展示室で作品や資料を見ながら、ご家族やお友達、展示室ボランティアとおしゃべりを楽しんでいただけるフリートークデーです。また当日は、博物館常設展・美術館コレクション展の入場が無料なので、鑑賞の途中でも気兼ねなく入りることができます。ぜひこの機会に博物館・美術館の魅力、そして身近な人とのおしゃべりを通して自分とは違う考え方、感じ方にも触れてみてください。大切な人の意外な一面に出会えるかもしれませんよ。

個人的には、冒頭で書いた“おすまし”な美術館もとても好きです。展覧会に行くためにいつもより少しオシャレをしてみたり、落ち着いた空間でゆったり作品を楽しんだりと、美術館は日常から少し距離を置ける特別な場所になることもあります。美術館の楽しみ方は人それぞれ、これからも色々な楽しみ方を体験していただける企画を考えていきたいと思います。

(教育普及担当 保久村 智恵)

美術館ってどんなイメージがありますか？静かでひんやりしていて、少し難しそうな“おすまし”なイメージではないでしょうか？この“おすまし”が美術館を何だか行きにくい場所にしてしまっている、と感じています。

(教育普及担当 保久村 智恵)

が時々あります。特に小さなお子さんがいらっしゃる方からは、「もう少し子どもが大きくなってから行こうかな」と言われることもしばしば…。

美術館で働く私達としては、誰でも気軽に立ち寄れる開かれた場所として多くの方に利用してもらいたい！それに、小さい頃から美術館を楽しめたら、心が豊かになるのでは!!と思ってしまいます。でも、それは私達がいつもここにいる職員だから言えることで、「そんなにハード高くないですよ。どんどん来てください」と言われても、お母さんの立場になると「泣き出さないかしら?」「展示室で走り回ったらどうしよう?」「他のお客様の迷惑になってしまふかも?」などなど考えることが多過ぎて、簡単に遊びに来られる場所ではないのが本音だと思います。

自分の感想も声に出してみると、より深く理解できますよね。友達の言葉は素敵なスパイスに変身します！

担当学芸員が選ぶ!

ふれあい体験室のイチオシ！キット

あの大人気キットが2年ぶりに復活！

このキットは、普段何気なく聞いている生き物たちの鳴き声を知ることができる体験キットです。人里、やんばる、西表島に住む動物が登場します。同じ種類の動物の鳴き声の違いや、活動する時間帯の違い(昼行性、夜行性)などを学ぶことができます。生き物のことをもっと知りたい方はぜひ鳴き声クイズに挑戦してみてください。

(教育普及担当 比嘉麻乃)

クイズが始まると鳴き声が流れてくるよ。声の主を見つけてみよう！

毎月楽しいイベント
が盛りだくさん
だみゅ～

10・11・12月のイベント情報

Museum 博物館

文化講座 無料

[各回] 時間 14:00～16:00 場所 講堂 定員 200名
※12月のみ変更

10/5土 台湾から見える沖縄 現地取材レポート 講師 松田 良孝氏

11/2土 シマクトウバによる民話の記録(仮題) 講師 西岡 敏氏 加治工 真市氏

12/21土 シンポジウムI 「形から見たグスクの原点を探る」 時間 13:00～17:00

・世界の村を囲う城について ・朝鮮半島における邑城について
講師 千田 嘉博氏 講師 山元 貴繼氏

・日本本土に見られる 朝鮮式山城について ・福建省に分布する 明代の城郭遺跡
講師 向井 一雄氏 講師 山本 正昭(展覧会担当者)

博物館 学芸員講座 無料

[各回] 時間 14:00～16:00 場所 博物館講座室 定員 80名

10/12土 フィールドツアー② 沖縄本島北部の自然観察へ行こう！
※受付は終了しました
講師 宇佐美 賢(地学) 菊川 章(生物)
場所 沖縄本島北部本部半島 時間 9:00～13:00

11/9土 映像・写真記録の沖縄 ~OkiMu(博物館)のコレクションから
講師 外間 一先(歴史)

12/14土 館所蔵「石碑」について ~残された「拓本」から考える
講師 久部良 和子(歴史)

博物館常設展 展示解説会

[各回] 時間 14:00～15:00 場所 博物館常設展示室
※当日有効の常設展観覧券が必要

10/10土 美術工芸 講師 伊禮 拓郎
11/14土 民俗 講師 阿利 よし乃
12/12土 考古 講師 山本 正昭

バックヤードツアー 無料

[各回] 時間 14:00～15:00 集合場所 ふれあい体験室前 定員 12名
※当日13:00より総合案内で受付

10/26土 地学 講師 宇佐美 賢
11/23土 歴史 講師 久部良 和子
12/28土 歴史 講師 外間 一先

Art Museum 美術館

美術館 学芸員講座

10/5土 美術品の保存について～保存修復の現場から
講師 梶原 正史 時間 14:00～15:30(開場13:30)
場所 美術館講座室、コレクションギャラリー 定員 50名
※当日有効の美術館コレクション展の観覧券が必要

コレクション展 関連催事

[各回] 時間 14:00～15:30(開場13:30) 場所 美術館講座室、コレクションギャラリー 定員 50名
※当日有効の美術館コレクション展の観覧券が必要

11/16土 「作家の視点、作品の視点」 キュレータートーク+学芸員講座
講師 亀海 史明

12/7土 「真喜志勉 ドローイング展」 ギャラリートーク
講師 調整中

12/14土 「沖縄美術の流れ」 ギャラリートーク
講師 調整中

「上條文穂と波多野泉 現代彫刻展」関連催事 無料

10/26土 シンポジウム
講師 西村 貞雄氏(彫刻家) 上條 文穂氏(彫刻家) 波多野 泉氏(彫刻家) 大田 和人氏(アトリエキャンプタルガニー) 玉那覇 英人氏(美術教諭)
時間 14:00～16:00 場所 講堂 定員 200名

美術館ミュージアムツアーワークショップ 無料

11/3日 担当 梶原 正史(保存管理担当学芸員)
時間 10:30～12:00(10:25までに「美術館ホワイエ」集合)
定員 12名(事前申込制)
※来館・電話にて催事の1ヵ月前から受付開始

『OKINAWA』アートワークショップ2019

10/19土 石獅子 守り神づくり ※受付は終了しました
講師 若山 大地氏 若山 恵里氏(スタジオde-jin)
時間 9:30～12:30/14:00～17:00 参加費 3,000円(石材1個)

次ページへ続く

6

7

『OKINAWA』アートワークショップ2019

※来館・電話にて催事の1ヶ月前から受付開始

11/16㈯～17㈰ 漆喰シーサーに挑戦!

- 講師** 【現代の名工】山城 富函氏 大城 幸祐氏
沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合のみなさん
- 時間** 10:00～15:00 (12:00から1時間昼休憩)
- 場所** 県民アトリエ、こどもアトリエ **定員** 20名
- 対象** 2日間必ず参加できる小学5年生～一般 **参加費** 1,500円

12/14㈯ 千支紅型でお正月支度

- 講師** 山城 信吾氏 吉濱 愛氏 (城紅型染工房)
- 時間** 午前の部 10:00～12:00 午後の部 14:00～16:00
- 場所** 県民アトリエ、こどもアトリエ **定員** 各回20名
- 対象** 5才～一般 (未就学児童は保護者同伴)
- 参加費** 千支タペストリー 3,500円、千支マット 1,700円



[開館時間] 9:00～18:00 (金曜日・土曜日は20:00まで)
※入館は閉館30分前まで

[休館日] 月曜日 (月曜日が祝日にあたる場合は開館し、翌平日が休館)
年末年始
メンテナンス休館 (2020年2月17日～21日)
※休館日は変更することがあります。
当館ホームページをご覧ください。

[ホームページ] <https://okimu.jp>

| アクセス | 駐車場は台数が限られておりますので、
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

【沖縄都市モノレール】ゆいレール おもろまち駅下車（徒歩10分）

| 編集後記 | まだまだ暑い日が続いていますが、朝夕は涼しくなって、少しずつ秋を感じるようになりましたね。おもろまちから牧志へ下る坂道を、秋風に当たりながら歩いて帰るのが最近のちょっとした楽しみです。さて、秋深まる頃にはおきみゅーで恒例の誕生祭がありますよ。今回は「台湾」がテーマ。台湾にちなんだ食や音楽、ワークショップはもちろん、映画上映会まであるんです。いつも以上に皆さんにお勧めしたいラインナップ。個人的には、ミュージアムショップゆいむいで販売している台湾雑貨に注目です。刺繍靴やハット、バックなどどれも安くておしゃれ！私は環境にやさしいステンレス製のストローを買いましたよ。次は台湾旅行だ！と思っている今日この頃です。(きなこ)

沖縄県立博物館・美術館 季刊誌

おきみゅー通信 vol.13 秋号

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

TEL 098-941-8200 (代表)

[発行日] 2019年10月10日

[編集・発行] 沖縄県立博物館・美術館 指定管理者
一般財団法人 沖縄美ら島財団